14－2　大鳥中学校における初動対応シート

場面	対象	地震発生	安全確保	1次避難	安全確認	津波情報	2次避難	安全確認	情報収集 被害状況把握	保護者へ連絡・ 引き渡し	防災拠点機能 ＜学校に留まっている場合＞
大地震発生・大津波警報発表 課業中	校長・副校長	地震発生	◎緊急放送で安全確保の指示 ◎テレビ・ラジオ等で地震・津波警報等の確認と最新情報を入手	地震が収まったら 津波の危険が迫っている場合は、 統轄本部設置 ◎校長は、校長室（職員室）で指揮 ・緊急放送で全校避難を指示 ◎副校長は、すぐに校庭へ	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・二次避難の準備・計画 ・負傷者の確認と手当 ・生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携 ＜1次避難状況を学校教育事務所へ報告＞（1次報告：様式2　FAX等）	大津波襲来の予想	1次避難を省略した場合は、2次避難場所で1次避難で行うべきことを実施する。 ◎警報を受け、付近の高台（校舎最上階）への避難指示 ・津波情報の確認と最新情報を入手 ※事前に避難場所と経路を決めておく 2次避難場所を記載	◎人数と安否確認 児童生徒→担任→学年主任→副校長→校長 ・周囲の被害状況の把握 ・負傷者の確認と手当て ・生徒の不安緩和 ・病院等の医療機関との連携	◎学校教育事務所へ連絡 （第1次報告に変更がある場合） ◎区災害対策本部へ連絡 ※FAXの活用 ホームページ・ツイッター・電子メール等を活用した	◎統轄本部で情報収集 ・学校周辺の被害状況 ・公共交通機関等の運行状況 ・通信手段の開通状況 ・保護者への連絡方法の確認 保護者へ連絡 市域のいずれかで震度5強以上を観測した場合は 留め置き	◎区災害対策本部との連携 ◎学校教育事務所との連携 ◎防災拠点運営の協力
	教職員		◎的確な指示 ・「頭部をまもれ」 ・「机の下にもぐれ」 ・「机の脚をもて」 ・「安心するような声かけ」	◎校庭へ避難誘導 ・名簿・引き渡しカード・ホイッスル等の携帯 ・配慮を要する子どもへの対応 ・トイレ、特別教室等に児童生徒が残っていないか確認	災害対策本部設置 救出・救急医療班活動開始 消火・安全点検班活動開始 ◎施設被害状況の把握 ◎危険箇所の立入禁止措置		◎予め定めた付近の高台等へ避難誘導 ◎的確な情報を与え、落ち着くように指示	救出・救急医療班活動継続 消火・安全点検班活動継続	◎役割分担に従って行動 ・学校、地域の被害状況把握（安全な場合は通学路等も・・・） ・ライフライン、公共交通機関の状況 ・負傷者への対応 ・危険箇所の確認と立入禁止の表示 ・不安を訴えている子どもへの対応（養護教諭中心に）	◎引き渡しの手順 ・電話による連絡 ・緊急連絡網等 連絡とれた → 保護者へ 連絡とれず、または、危険で保護者の引取が → 留め置き ・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡	地域防災拠点マニュアルに沿って協力開始
	児童生徒		◎揺れがおさまるのを待つ ・机の下にもぐり、落下物から身を守る	◎落ち着いて移動 ・頭部を保護しがら上履きのまま移動 ◎「おかしも」の約束 おさない かけない しゃべらない もどらない	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつしむ		◎落ち着いて移動 ・頭部を保護しがら上履きのまま移動 ・教員の指示に従い、急いで集合場所へ移動	◎負傷者がいる場合は助け合う ・勝手な行動をとらない ・私語をつつしむ	◎避難場所で静かに待つ ◎指示に従って、帰宅準備を行う	◎下校 ・保護者への引き渡し ・留め置き ・待避場所の確保 ・食糧の確保 ・保護者への連絡	
	各学校の特記事項										